2020年度　　北海道スポーツ専門学校　　スポーツトレーナー／スポーツ健康 学科
AT・MT・PH／TR・IN・CO・SB コース

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目<br>（科目ID） | スノーボード・スキー宿泊実習Ⅱ<br>20t226／20s231 | 担当教員<br>（実務経験） | 田口 清輝<br>有 ☑ 無 ☐ トレーニング指導者 | | |
| 対象年次・学期 | 2年・集中 | 必修・選択区分 | 選択 | 単位数 | 2単位 |
| 授業形態 | 実習 | 授業回数（1回180分） | 15 | 時間数 | 60時間 |
| 授業目的 | スキー・スノーボードにおける、基礎技術・知識の習得と向上を目指す。<br>スキー・スノーボード検定受験により、資格取得を目指す。 | | | | |
| 到達目標 | 冬山における、怪我の予防、ゲレンデマナー及びリスクマネジメントを理解し、指導者としての資質を身に付ける。 | | | | |
| テキスト・<br>参考図書等 | 必要に応じて資料等配布する。 | | | | |

評価方法・評価基準

| 評価方法 | 評価割合（%） | 評価基準 |
|---|---|---|
| 試験 | % | レポート・提出物等の状況を総合的に評価する<br>その他は受講姿勢等で評価する |
| レポート | 10% | |
| 小テスト | % | |
| 提出物 | 10% | |
| その他 | 80% | |

| | |
|---|---|
| 履修上の<br>留意事項 | 宿泊研修という決まりの中で、自己管理、時間管理を徹底して行う事。 |

履修主題・履修内容

| 回数 | 履修主題 | 履修内容 |
|---|---|---|
| 1 | 事前説明会 | 目的、注意事項伝達 |
| 2 | 1日目午後レッスン開始 | 各班に分かれ道具の特性・理論等を学ぶ |
| 3 | 1日目ミーティング | 1日目学んだことを各班で話し合い、日誌に記入する |
| 4 | 1日目ナイター練習 | 1日目に学んだことを復習する。 |
| 5 | 2日目午前レッスン開始 | 1日目より難易度の高い事を学ぶ |
| 6 | 2日目午後レッスン開始 | 1日目より難易度の高い事を学ぶ |
| 7 | 2日目ミーティング | 2日目学んだことを各班で話し合い、日誌に記入する |
| 8 | 2日目ナイター練習 | 2日目に学んだことを復習する。 |
| 9 | 3日目午前レッスン開始 | 2日目より難易度の高い事を学ぶ |
| 10 | 3日目午後レッスン開始 | 2日目より難易度の高い事を学ぶ |
| 11 | 3日目ミーティング | 3日目学んだことを各班で話し合い、日誌に記入する |
| 12 | 3日目ナイター練習 | 3日目に学んだことを復習する。 |
| 13 | 4日目午前レッスン開始 | 各班に分かれ、検定へ向けてレッスンをする |
| 14 | 4日目検定 | 今まで学んだことを踏まえて検定に臨む |
| 15 | 4日目ミーティング | 4日目学んだことを各班で話し合い、日誌に記入する |

2020年度　北海道スポーツ専門学校　スポーツトレーナー／スポーツ健康　学科
PHⅡ／TR・IN・CO・SBⅡ　コース

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目<br>（科目ID） | ジュニアスポーツ指導実習<br>20t230／20s238 | 担当教員<br>（実務経験） | 古本　真希<br>有 ☐　無 ☑ | | |
| 対象年次・学期 | 2年・前期 | 必修・選択区分 | 選択（PHⅡ）／必修 | 単位数 | 2単位 |
| 授業形態 | 実習 | 授業回数（1回90分） | 30 | 時間数 | 60時間 |
| 授業目的 | 幼児へのスイミングレッスンを計画→実施→反省を行うことで、指導技術を習得する。また、実際に幼児に携わることでスイミング技術だけではなく、幼児へのスポーツ指導も学ぶ。 | | | | |
| 到達目標 | グループワークを通して、インストラクターの役割への理解。実習を通して、レッスンの計画方法の立案、子ども達への対応ができる。 | | | | |
| テキスト・参考図書等 | 必要に応じて資料等配布 | | | | |

評価方法・評価基準

| 評価方法 | 評価割合（%） | 評価基準 |
|---|---|---|
| 試験 | % | レポート・提出物の内容や期日がしっかり守られ、提出されたら評価する。<br>その他は指導案作成中や指導中の姿勢で評価する。 |
| レポート | 20% | |
| 小テスト | % | |
| 提出物 | 20% | |
| その他 | 60% | |

履修上の留意事項：指導計画案の作成や反省会は教室で実施し、グループワークを中心に進めます。プールでの班別指導実習が中心です。実習後には反省→日誌の記入→提出となります。初回は教室でオリエンテーションを行います。水に慣れていない幼児も多いので、計画の段階から責任感を強く持って授業に臨んでください。実習が始まれば、毎回が本番となります。常に緊張感を忘れず、実習を行ってください。

履修主題・履修内容

| 回数 | 履修主題 | 履修内容 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション／指導計画の作成 | オリエンテーション／指導計画・指導案作成 |
| 2 | 指導計画の作成 | 指導実習計画・指導案作成 |
| 3 | 指導計画案の予行演習 | 指導技術（補助・道具の利用方法）の練習 |
| 4 | 指導計画案の予行演習 | 指導技術（補助・道具の利用方法）の練習 |
| 5 | 指導計画案の作成・見直し | 指導実習計画・指導案見直し |
| 6 | 指導計画案の予行演習 | 指導実習の練習・指導案見直し |
| 7 | 指導計画案の予行演習 | 指導実習の練習・指導案見直し |
| 8 | 指導実習 | 幼稚園A①－1 |
| 9 | 指導実習 | 保育園実習予定 |
| 10 | 指導実習 | 幼稚園A①－2 |
| 11 | 指導実習 | 保育園指導実習予定 |
| 12 | 指導実習 | 幼稚園A①－3 |
| 13 | 指導実習 | 保育園指導実習予定 |
| 14 | 指導実習 | 幼稚園A②－1 |
| 15 | 指導実習 | 保育園指導実習予定 |
| 16 | 指導実習 | 幼稚園A②－2 |
| 17 | 指導実習 | 保育園指導実習予定 |
| 18 | 指導実習 | 幼稚園A②－3 |
| 19 | 指導実習 | 保育園指導実習予定 |
| 20 | 指導実習 | 幼稚園A③－1 |
| 21 | 指導実習 | 幼稚園B① |
| 22 | 指導実習 | 幼稚園A③－2 |
| 23 | 指導実習 | 幼稚園B② |
| 24 | 指導実習 | 幼稚園A③－3 |
| 25 | 指導実習 | 幼稚園B③ |
| 26 | 指導実習振り返り | 幼稚園AB実習反省まとめ |
| 27 | 指導実習振り返り | 幼稚園AB実習反省まとめ |
| 28 | 実習 | 保育園指導実習予定 |
| 29 | 実習 | 保育園指導実習予定 |
| 30 | 指導実習振り返り | 全体まとめ |

2020年度　北海道スポーツ専門学校　スポーツトレーナー／スポーツ健康 学 　別紙1

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目<br>（科目ID） | ジュニアスポーツ指導実習<br>20t230／20s238 | 担当教員<br>（実務経験） | 千保 大聖<br>有 ☑ 無 ☐ トレーニング指導者 |
| 対象年次・学期 | 2年・前期 | 担当教員<br>（実務経験） | 有 ☐ 無 ☐ |
| 授業形態 | 実習 | | |
| | | 担当教員<br>（実務経験） | 有 ☐ 無 ☐ |
| | | 担当教員<br>（実務経験） | 有 ☐ 無 ☐ |
| | | 担当教員<br>（実務経験） | 有 ☐ 無 ☐ |
| | | 担当教員<br>（実務経験） | 有 ☐ 無 ☐ |
| | | 担当教員<br>（実務経験） | 有 ☐ 無 ☐ |
| | | 担当教員<br>（実務経験） | 有 ☐ 無 ☐ |
| | | 担当教員<br>（実務経験） | 有 ☐ 無 ☐ |
| | | 担当教員<br>（実務経験） | 有 ☐ 無 ☐ |

2020年度　北海道スポーツ専門学校　スポーツトレーナー／スポーツ健康 学科
AT・MT・PH／TR・IN・CO・SB コース

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目（科目ID） | 就職セミナー 20s120 | 担当教員（実務経験） | 濱田 光 有 ☐ 無 ☑ | | |
| 対象年次・学期 | 各学科就職学年前年・集中 | 必修・選択区分 | 必修 | 単位数 | 1単位 |
| 授業形態 | 実習 | 授業回数（1回90分） | 15 | 時間数 | 30時間 |
| 授業目的 | 就職への意識づけ、意欲向上を目的とする。 | | | | |
| 到達目標 | 各種セミナーに積極的に参加することで、社会人に必要な知識・能力について理解を深めることができる。 | | | | |
| テキスト・参考図書等 | | | | | |

評価方法・評価基準

| 評価方法 | 評価割合（%） | 評価基準 |
|---|---|---|
| 試験 | % | セミナー担当者に、各プログラムに対する取り組み状況について、相対的な判断にて評価してもらう。（セミナー担当者と当該クラス担任間において情報交換し評価する場合もある。）「レポート（感想、アンケート含む）」の提出をもって、取り組み状況を把握する。 |
| レポート | % | |
| 小テスト | % | |
| 提出物 | % | |
| その他 | 100% | |

履修上の留意事項：セミナー参加に対する各自の目標設定等が大変重要となります。就職活動がより充実したものとなるように、積極的にコミュニケーションを図りながら、目標達成を目指してください。

履修主題・履修内容

| 回数 | 履修主題 | 履修内容 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 就職セミナーの目的説明、挨拶練習、その他 |
| 2 | セミナー① | 就職活動と社会人 |
| 3 | | |
| 4 | セミナー② | シンポジウム（就職活動開始から内定まで、各種試験、その他） |
| 5 | | |
| 6 | | |
| 7 | セミナー③ | 就活・スーツ・見出しなみについて |
| 8 | | |
| 9 | セミナー④ | 就活本番に向けて |
| 10 | | |
| 11 | セミナー⑤ | 本当に必要な人材とは |
| 12 | | |
| 13 | セミナー⑥ | 就活に向けての大切な第一歩！ |
| 14 | | |
| 15 | まとめ | レポート作成、就職に関する意識調査、各種アンケート等 |

2020年度　　北海道スポーツ専門学校　　スポーツトレーナー／スポーツ健康 学科
AT・MT・PH／TR・IN・CO・SB コース

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目（科目ID） | コミュニケーションⅡ<br>20t232／20s236 | 担当教員<br>（実務経験） | 未定<br>有 □　無 □ | | |
| 対象年次・学期 | 2年・集中 | 必修・選択区分 | 必修 | 単位数 | 2単位 |
| 授業形態 | 講義 | 授業回数（1回90分） | 15 | 時間数 | 30時間 |
| 授業目的 | 1年次からの応用として、コミュニケーションを通じて、課題克服への積極的挑戦から自信に繋げる。 | | | | |
| 到達目標 | 自主的に話題性をもって、人に関わり、立ち位置を確立できるようになる。 | | | | |
| テキスト・参考図書等 | 必要に応じて、資料を配布する。 | | | | |

| 評価方法・評価基準 | 評価方法 | 評価割合（%） | 評価基準 |
|---|---|---|---|
| | 試験 | % | レポート 20%<br>提出物 20%<br>その他 60%（受講姿勢、受講態度等30%、担当所見30%） |
| | レポート | 20% | |
| | 小テスト | % | |
| | 提出物 | 20% | |
| | その他 | 60% | |

| | |
|---|---|
| 履修上の留意事項 | プリント・視聴覚機器等を活用しながら進めていきます。人との信頼関係を築くためのツールとして『コミュニケーション』はとても大切です。社会人に向けての大切な要素を学ぶ期間として、真剣に自分と向き合ってみましょう。 |

| 履修主題・履修内容 | 回数 | 履修主題 | 履修内容 |
|---|---|---|---|
| | 1 | 就職活動に向けて① | 履歴書の記入方法 |
| | 2 | 就職活動に向けて② | 自己分析<br>自分の強み、弱さ、今後どのように成長していくか、どのような職業人でありたいか |
| | 3 | 就職活動に向けて③ | 業界研究<br>進みたい分野においての調査 |
| | 4 | 就職活動に向けて④ | 就職情報サイトの利用方法 |
| | 5 | 面接試験に向けて① | 心構え、様々な面接試験について |
| | 6 | 面接試験に向けて② | 入退室、面接試験体験① |
| | 7 | 面接試験に向けて③ | 入退室、面接試験体験② |
| | 8 | 一般常識① | 漢字（読み・書き） |
| | 9 | 一般常識② | 丁寧語、敬語 |
| | 10 | 一般常識③ | 挨拶、接遇 |
| | 11 | 一般常識④ | マナー、一般常識（応用） |
| | 12 | 一般常識⑤ | ペア対話、グループ対話 |
| | 13 | まとめ① | 確認テスト（読み・書き・丁寧語・敬語） |
| | 14 | まとめ② | 確認テスト（挨拶・接遇） |
| | 15 | まとめ③ | 確認テスト（マナー・一般常識応用） |

2020年度　北海道スポーツ専門学校　スポーツトレーナー／スポーツ健康 学科
AT・MT・PH／TR・IN・CO・SB コース

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目<br>（科目ID） | カレッジイベントⅡ<br>20t233／20s237 | 担当教員<br>（実務経験） | 未定<br>有 ☐　無 ☐ | | |
| 対象年次・学期 | 2年・集中 | 必修・選択区分 | 必修 | 単位数 | 1単位 |
| 授業形態 | 講義 | 授業回数（1回90分） | 15 | 時間数 | 30時間 |
| 授業目的 | イベントを楽しく成功させる為の方法をディスカッションを通じ企画する事を目的とする。 | | | | |
| 到達目標 | 誰もが楽しめるイベントを目指す。 | | | | |
| テキスト・<br>参考図書等 | 必要に応じて資料を配布。 | | | | |

評価方法・評価基準

| 評価方法 | 評価割合（%） | 評価基準 |
|---|---|---|
| 試験 | % | レポート 20%<br>提出物　20%<br>その他　60%（受講姿勢、受講態度等30%、担当所見30%） |
| レポート | 20% | |
| 小テスト | % | |
| 提出物 | 20% | |
| その他 | 60% | |

| | |
|---|---|
| 履修上の<br>留意事項 | プリント・視聴覚機器等を活用しながら進めていきます。、人との信頼関係を築くためのツールとして『コミュニケーション』はとても大切です。社会人に向けての大切な要素を学ぶ期間として、真剣に自分と向き合ってみましょう。 |

履修主題・履修内容

| 回数 | 履修主題 | 履修内容 |
|---|---|---|
| 1 | カレッジイベント内容① | イベントの内容説明 |
| 2 | 役割分担 | 執行部、委員、種目担当、種目参加者の決定 |
| 3 | リハーサル | 各種目のルール、及び実践確認 |
| 4 | イベント実施 | スポーツ大会 |
| 5 | 振り返り | レポート作成、提出 |
| 6 | カレッジイベント内容② | イベントの内容説明 |
| 7 | 役割分担 | 執行部、委員、種目担当、種目参加者の決定 |
| 8 | リハーサル | 各種目のルール、及び実践確認 |
| 9 | イベント実施 | スポーツフェスティバル |
| 10 | 振り返り | レポート作成、提出 |
| 11 | カレッジイベント内容③ | イベントの内容説明 |
| 12 | 役割分担 | 執行部、委員、イベント参加者、展示担当者の決定 |
| 13 | リハーサル | 執行部、委員、イベント参加者、展示担当者　当日準備 |
| 14 | イベント実施 | 学園祭 |
| 15 | 振り返り | レポート作成、提出 |

2020年度　　北海道スポーツ専門学校　　スポーツトレーナー／スポーツ健康　学科
AT・MT・PH／TR・IN・CO・SB　コース

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目<br>（科目ID） | ビジネススキル<br>18t323／20s116 | 担当教員<br>（実務経験） | 高山　理香<br>有 ☑　無 ☐　事務員 | | |
| 対象年次・学期 | 2年・後期<br>1年・後期 | 必修・選択区分 | 必修 | 単位数 | 2単位 |
| 授業形態 | 講義 | 授業回数（1回90分） | 15 | 時間数 | 30時間 |
| 授業目的 | 就職活動の開始に先立って、社会・組織の一員として必要不可欠な社会常識やビジネスマナーの理解を目的とする。就職後を見据え、社内外で信頼を得、円滑により良い人間関係を構築するために必要となる初歩的なビジネス技能を学ぶ。 | | | | |
| 到達目標 | 学習の成果として「社会人常識マナー検定」を受験し合格が目標となるが、検定を合格するだけが最終目標ではなく、その先として社会に通用する人になること。 | | | | |
| テキスト・参考図書等 | 教科書（社会人常識マナー検定テキスト2・3級）、プリント配布 | | | | |

| 評価方法・評価基準 | 評価方法 | 評価割合（%） | 評価基準 |
|---|---|---|---|
| | 試験 | % | 社会人常識マナー検定の合否と、授業内の姿勢（授業態度、過去問など）を評価の対象とする。 |
| | レポート | % | |
| | 小テスト | % | |
| | 提出物 | % | |
| | その他 | 100% | |

| 履修上の留意事項 |
|---|
| 板書形式の授業を通し上記の知識を高めていく。必要に応じプリント教材などを使用する。、この授業を通し、一人の社会人として必要な心構えを身に付け、ビジネス社会へはばたくための準備をしてください。ここで身に付けたスキルは学校生活においても即実践可能なものも多いため、有効に活用すればより充実した学校生活につながるでしょう。最終的な目標は「社会人常識マナー検定」合格です。資格取得をめざし、頑張りましょう。 |

| 履修主題・履修内容 | 回数 | 履修主題 | 履修内容 |
|---|---|---|---|
| | 1 | 社会常識 | 社会と組織 |
| | 2 | ↓ | 仕事と成果 |
| | 3 | ↓ | 一般知識①　政治経済の基礎用語／漢字の読み書き／カタカナ用語 |
| | 4 | ↓ | 一般知識②　各都道府県／欧文略語／世界の国名と首都 |
| | 5 | ↓ | ビジネス計算 |
| | 6 | コミュニケーション | ビジネスコミュニケーション／敬語 |
| | 7 | ↓ | ビジネス文書の活用 |
| | 8 | ビジネスマナー | 職場のマナー／来客応対／電話応対 |
| | 9 | ↓ | 交際業務 |
| | 10 | ↓ | 文書類の受け取りと発想／会議／発送 |
| | 11 | 検定対策 | 過去問　問題練習／解答解説 |
| | 12 | ↓ | |
| | 13 | ↓ | |
| | 14 | ↓ | |
| | 15 | ↓ | |

2020年度　北海道スポーツ専門学校　スポーツトレーナー／スポーツ健康 学科
AT・MT・PH／TR・IN・CO・SB コース

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目<br>（科目ID） | 外国語<br>20t235／20s235 | 担当教員<br>（実務経験） | 未定<br>有 □　無 □ | | |
| 対象年次・学期 | 2年・通年 | 必修・選択区分 | 必修（SB）・選択 | 単位数 | 4単位 |
| 授業形態 | 講義・実技 | 授業回数（1回90分） | 30 | 時間数 | 60時間 |
| 授業目的 | 外国語を通じて、コミュニケーション能力を養う。 | | | | |
| 到達目標 | 外国語で自分の意見や考えを述べることが出来る。 | | | | |
| テキスト・参考図書等 | | | | | |

評価方法・評価基準

| 評価方法 | 評価割合（%） | 評価基準 |
|---|---|---|
| 試験 | 50% | 試験、その他(受講姿勢、受講態度等)を総合的に評価する。 |
| レポート | % | |
| 小テスト | % | |
| 提出物 | % | |
| その他 | 50% | |

履修上の留意事項：テキスト、プリントを使用し話すことを主とした授業。楽しみながら触れていきたいと思います。

履修主題・履修内容

| 回数 | 履修主題 | 履修内容 |
|---|---|---|
| 1 | 基本会話 | 挨拶、自己紹介 |
| 2 | 基本会話 | 人を紹介する |
| 3 | 基本会話 | 自分のしたいことQ&A |
| 4 | 基本会話 | 自分の好きなことQ&A |
| 5 | 基本会話 | 自分のできることQ&A |
| 6 | 日常会話フレーズ | 話かける、お祝いを言う |
| 7 | 日常会話フレーズ | 励ます、なぐさめる |
| 8 | 日常会話フレーズ | 意見を言う、苦情を言う |
| 9 | 日常会話フレーズ | 曖昧に答える、困ったとき |
| 10 | 日常会話フレーズ | 嬉しい、楽しい、腹立たしい |
| 11 | 日常会話フレーズ | 感動する、おどろく |
| 12 | 日常会話フレーズ | お店に入る、注文する |
| 13 | 確認 | 前期内容の確認 |
| 14 | 確認 | 前期内容の確認 |
| 15 | 前期試験 | 試験実施 |
| 16 | 場面別会話 | レストラン |
| 17 | 場面別会話 | ショッピング |
| 18 | 場面別会話 | 道案内 |
| 19 | 出生地について説明 | 日本について話す |
| 20 | 出生地について説明 | 日本について話す |
| 21 | 出生地について説明 | 日本について話す |
| 22 | 出生地について説明 | 日本について話す |
| 23 | 海外旅行 | 旅行で使えるフレーズ |
| 24 | 海外旅行 | 旅行で使えるフレーズ |
| 25 | 海外旅行 | 旅行で使えるフレーズ |
| 26 | 海外旅行 | 旅行で使えるフレーズ |
| 27 | 将来について | 自分の将来を話す |
| 28 | 確認 | 後期内容の確認 |
| 29 | 確認 | 後期内容の確認 |
| 30 | 後期試験 | 試験実施 |

2020年度　　北海道スポーツ専門学校　　スポーツトレーナー　学科
MT／PH　コース

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目（科目ID） | インターンシップ／インターンシップ I<br>20t237／20t238 | 担当教員（実務経験） | 田口　清輝<br>有 ☑　無 ☐　トレーニング指導者 | | |
| 対象年次・学期 | 2年・集中 | 必修・選択区分 | 必修 | 単位数 | 2単位 |
| 授業形態 | 実習 | 授業回数（1回90分） | 30 | 時間数 | 60時間 |
| 授業目的 | 運動指導者として、実践現場で使える指導方法が出来る。 | | | | |
| 到達目標 | 運動指導者として幅広い対象者への指導が出来る。 | | | | |
| テキスト・参考図書等 | 必要に応じて資料を配布する。 | | | | |

評価方法・評価基準

| 評価方法 | 評価割合（％） | 評価基準 |
|---|---|---|
| 試験 | % | 受講姿勢、レポート、提出物、その他(受講姿勢、受講態度等)を総合的に評価する。 |
| レポート | 20% | |
| 小テスト | % | |
| 提出物 | 20% | |
| その他 | 60% | |

| | |
|---|---|
| 履修上の留意事項 | 特になし。 |

履修主題・履修内容

| 回数 | 履修主題 | 履修内容 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション（田口） | 年間スケジュール、実習内容の説明 |
| 2 | 指導実習の事前学習（Jrスイミング）（古本） | Jrスイミングの指導方法、留意点、基礎知識を学ぶ。 |
| 3 | 指導実習の事前学習（Jr体育）（田口） | Jr体育指導方法、留意点、基礎知識を学ぶ。 |
| 4 | 実習（スイミング・体育）（古本、田口、髙橋） | Jrスイミング指導。実際のスクールにサブコーチとして入水する。 |
| 5 | | Jrスイミング指導。実際のスクールにサブコーチとして入水する。 |
| 6 | | Jrスイミング指導。実際のスクールにサブコーチとして入水する。 |
| 7 | | Jrスイミング指導。実際のスクールにサブコーチとして入水する。 |
| 8 | | Jr体育スクール指導。実際のスクールに補助員として参加する。 |
| 9 | | Jr体育スクール指導。実際のスクールに補助員として参加する。 |
| 10 | | Jr体育スクール指導。実際のスクールに補助員として参加する。 |
| 11 | | Jr体育スクール指導。実際のスクールに補助員として参加する。 |
| 12 | 実習報告書の作成（スイミング・体育・イベント）（田口） | 各スクールを振り返っての実施内容、反省、まとめを作成。 |
| 13 | iBスタジオレッスンの受講 （古本、田口） | 45分間のスタジオレッスンに参加。 |
| 14 | | 45分間のスタジオレッスンに参加。 |
| 15 | | 45分間のスタジオレッスンに参加。 |
| 16 | iBスタジオレッスンの受講 （古本、田口） | 45分間のスタジオレッスンに参加。 |
| 17 | スタジオプログラムの計画①（田口、千保） | 班編成を組み、テーマ決定。 |
| 18 | スタジオプログラムの計画②（田口、千保） | メニュー構成① |
| 19 | スタジオプログラムの計画③（田口、千保） | メニュー構成② |
| 20 | スタジオプログラムの計画④（田口、千保） | メニュー構成③、掲示ポスターの作成。 |
| 21 | スタジオプログラムの計画⑤（田口、千保） | リハーサル実施。 |
| 22 | スタジオプログラムの計画⑥（田口、千保） | リハーサル実施。 |
| 23 | スタジオプログラムの実演（古本、田口、千保） | 一般の方を対象に実施。 |
| 24 | | 一般の方を対象に実施。 |
| 25 | | 一般の方を対象に実施。 |
| 26 | スタジオプログラム実習報告書作成（田口） | 実施内容、反省、まとめを作成。 |
| 27 | 講義実習①（田口） | スポーツクラブ運営について。（顧客管理、 |
| 28 | 講義実習②（髙橋） | 水泳指導の実際について。（4泳法について、施設管理について） |
| 29 | 講義実習③（土岐） | トレーニングについて。（BIG3、指導方法） |
| 30 | まとめ（田口） | 全行程を振り返り、反省、まとめを作成。 |

2020年度　　北海道スポーツ専門学校　　スポーツトレーナー／スポーツ健康　学科
AT・MT・PH／TR・IN・CO・SB　コース

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目（科目ID） | 二年次研究課題Ⅰ<br>20t239／20s240 | 担当教員<br>（実務経験） | 濱田　光<br>有 ☐　無 ☑ | | |
| 対象年次・学期 | 2年・集中 | 必修・選択区分 | 選択 | 単位数 | 4単位 |
| 授業形態 | 講義 | 授業回数（1回180分） | 15 | 時間数 | 60時間 |
| 授業目的 | 与えられた課題や問題を学問的に深く考え、調べ、明らかにする。 | | | | |
| 到達目標 | 調べ、明らかにした内容をレポート等としてまとめあげる。 | | | | |
| テキスト・参考図書等 | 必要に応じて資料等配布する | | | | |

| 評価方法・評価基準 | 評価方法 | 評価割合（%） | 評価基準 |
|---|---|---|---|
| | 試験 | % | レポートや提出物等の状況を総合的に評価する。 |
| | レポート | 60% | |
| | 小テスト | % | |
| | 提出物 | 20% | |
| | その他 | 20% | |

| 履修上の留意事項 | |
|---|---|
| | |

| 履修主題・履修内容 | 回数 | 履修主題 | 履修内容 |
|---|---|---|---|
| | 1 | 評価の目的、意義および役割 | 現場で必要な評価 |
| | 2 | 姿勢・アライメント・筋委縮 | 姿勢の評価基準・指標、スポーツ活動と姿勢 |
| | 3 | 姿勢・アライメント・筋委縮 | 筋委縮の観察、計測の目的と意義 |
| | 4 | 関節弛緩性 | 関節弛緩性検査の目的、意義および検査方法 |
| | 5 | 体力測定 | 体力測定（概論）、一般青年、成人を対象 |
| | 6 | 体力測定 | 少年を対象、中・高年齢者を対象 |
| | 7 | 筋タイトネス | 筋柔軟性・筋タイトネスとその検査測定の意義 |
| | 8 | 全身持久力と敏捷性 | 全身持久力の目的と意義および手技と測定指標 |
| | 9 | 全身持久力と敏捷性 | 敏捷性・協調性の目的と意義および具体的手法 |
| | 10 | 関節可動域 | 関節可動域測定の目的、意義および検査方法、留意点 |
| | 11 | 徒手筋力検査 | 徒手筋力検査の目的と意義 |
| | 12 | 徒手筋力検査 | 判定基準、検査上の留意点、検査手順 |
| | 13 | 身体組成 | 目的と意義、および具体的手法 |
| | 14 | 筋力および筋パワー | 目的と意義および検査測定方法 |
| | 15 | 筋力および筋パワー | 機器による筋力評価 |

別紙1

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目<br>（科目ID） | 二年次研究課題Ⅰ<br>20t239／20s240 | 担当教員<br>（実務経験） | 高山　理香<br>有 ☑　無 ☐　事務員 |
| 対象年次・学期 | 2年・集中 | 担当教員<br>（実務経験） | 北村　和弘<br>有 ☑　無 ☐　スポーツ指導員 |
| 授業形態 | 講義 | | |
| | | 担当教員<br>（実務経験） | 有 ☐　無 ☐ |
| | | 担当教員<br>（実務経験） | 有 ☐　無 ☐ |
| | | 担当教員<br>（実務経験） | 有 ☐　無 ☐ |
| | | 担当教員<br>（実務経験） | 有 ☐　無 ☐ |
| | | 担当教員<br>（実務経験） | 有 ☐　無 ☐ |
| | | 担当教員<br>（実務経験） | 有 ☐　無 ☐ |
| | | 担当教員<br>（実務経験） | 有 ☐　無 ☐ |
| | | 担当教員<br>（実務経験） | 有 ☐　無 ☐ |

| 2020年度 | 北海道スポーツ専門学校 | スポーツトレーナー／スポーツ健康 学科<br>AT・MT・PH／TR・IN・CO・SB コース |
|---|---|---|

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目<br>（科目ID） | 二年次研究課題Ⅱ<br>20t240／20s241 | 担当教員<br>（実務経験） | 濱田 光<br>有 ☐ 無 ☑ | | |
| 対象年次・学期 | 2年・集中 | 必修・選択区分 | 選択 | 単位数 | 4単位 |
| 授業形態 | 講義 | 授業回数（1回180分） | 15 | 時間数 | 60時間 |
| 授業目的 | 与えられた課題や問題を学問的に深く考え、調べ、明らかにする。 | | | | |
| 到達目標 | 調べ、明らかにした内容をレポート等としてまとめあげる。 | | | | |
| テキスト・<br>参考図書等 | 必要に応じて資料等配布する | | | | |

| 評価方法・評価基準 | 評価方法 | 評価割合（%） | 評価基準 |
|---|---|---|---|
| | 試験 | % | レポートや提出物等の状況を総合的に評価する。 |
| | レポート | 60% | |
| | 小テスト | % | |
| | 提出物 | 20% | |
| | その他 | 20% | |

| | |
|---|---|
| 履修上の<br>留意事項 | |

| 履修主題・履修内容 | 回数 | 履修主題 | 履修内容 |
|---|---|---|---|
| | 1 | アスリハの基本的な考え方（1） | 段階的なプログラム処方 |
| | 2 | アスリハの基本的な考え方（2） | リスク管理／競技特性（体力特性・動作特性） |
| | 3 | アスリハの基本的な考え方（3） | 再発予防への配慮 |
| | 4 | アスリハの基本的な考え方（4） | 安定性、可動性、協調性 |
| | 5 | 足関節捻挫へのアスリハ（1） | 概要説明 |
| | 6 | 足関節捻挫へのアスリハ（2） | デモンストレーション及び指導 |
| | 7 | 足関節捻挫へのアスリハ（3） | アスリハプログラムの立案 |
| | 8 | 大腿後面肉離れへのアスリハ（1） | 概要説明 |
| | 9 | 大腿後面肉離れへのアスリハ（2） | デモンストレーション及び指導 |
| | 10 | 大腿後面肉離れへのアスリハ（3） | アスリハプログラムの立案 |
| | 11 | 前十字靭帯損傷へのアスリハ（1） | 概要説明 |
| | 12 | 前十字靭帯損傷へのアスリハ（2） | デモンストレーション及び指導 |
| | 13 | 前十字靭帯損傷へのアスリハ（3） | アスリハプログラムの立案 |
| | 14 | 肩関節前方脱臼へのアスリハ（1） | 概要説明 |
| | 15 | 肩関節前方脱臼へのアスリハ（2） | デモンストレーション及び指導、アスリハプログラムの立案 |

2020年度　　北海道スポーツ専門学校　　スポーツトレーナー／スポーツ健康 学 　　別紙1

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目<br>（科目ID） | 二年次研究課題Ⅱ<br>20t240／20s241 | 担当教員<br>（実務経験） | 高山 理香<br>有 ☑ 無 ☐ 事務員 |
| 対象年次・学期 | 2年・集中 | 担当教員<br>（実務経験） | 北村 和弘<br>有 ☑ 無 ☐ スポーツ指導員 |
| 授業形態 | 講義 | | |
| | | 担当教員<br>（実務経験） | 有 ☐ 無 ☐ |
| | | 担当教員<br>（実務経験） | 有 ☐ 無 ☐ |
| | | 担当教員<br>（実務経験） | 有 ☐ 無 ☐ |
| | | 担当教員<br>（実務経験） | 有 ☐ 無 ☐ |
| | | 担当教員<br>（実務経験） | 有 ☐ 無 ☐ |
| | | 担当教員<br>（実務経験） | 有 ☐ 無 ☐ |
| | | 担当教員<br>（実務経験） | 有 ☐ 無 ☐ |
| | | 担当教員<br>（実務経験） | 有 ☐ 無 ☐ |

2020年度　北海道スポーツ専門学校　スポーツトレーナー／スポーツ健康 学科
AT・MT・PH／TR・IN・CO・SB コース

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目<br>（科目ID） | 二年次研究課題Ⅲ<br>20t241／20s242 | 担当教員<br>（実務経験） | 濱田 光<br>有 ☐ 無 ☑ | | |
| 対象年次・学期 | 2年・集中 | 必修・選択区分 | 選択 | 単位数 | 4単位 |
| 授業形態 | 講義 | 授業回数（1回180分） | 15 | 時間数 | 60時間 |
| 授業目的 | 与えられた課題や問題を学問的に深く考え、調べ、明らかにする。 | | | | |
| 到達目標 | 調べ、明らかにした内容をレポート等としてまとめあげる。 | | | | |
| テキスト・参考図書等 | 必要に応じて資料等配布する | | | | |

評価方法・評価基準

| 評価方法 | 評価割合（%） | 評価基準 |
|---|---|---|
| 試験 | % | レポートや提出物等の状況を総合的に評価する。 |
| レポート | 60% | |
| 小テスト | % | |
| 提出物 | 20% | |
| その他 | 20% | |

| 履修上の留意事項 | |
|---|---|

履修主題・履修内容

| 回数 | 履修主題 | 履修内容 |
|---|---|---|
| 1 | コンディショニングの概念 | コンディショニングの概念とその要素 |
| 2 | トレーニングの基礎 | 超回復、ATP産生について |
| 3 | トレーニングの基礎 | 筋線維タイプ、筋収縮様式について |
| 4 | トレーニングの原則 | 7原則の確認 |
| 5 | ピリオダイゼーション | GAS理論、期分けの分類 |
| 6 | トレーニングカテゴリー | トレーニングの分類 |
| 7 | レジスタンスTr・プライオメトリクス | 具体的種目の確認、その目的と効果 |
| 8 | パワーエクササイズ | 具体的種目の確認、その目的と効果 |
| 9 | アジリティーTr | 具体的種目の確認、その目的と効果 |
| 10 | エンデュランストレーニング | 具体的種目の確認、その目的と効果 |
| 11 | コーディネーショントレーニング | 具体的種目の確認、その目的と効果 |
| 12 | サーキットトレーニング | 具体的種目の確認とその目的と効果 |
| 13 | フィットネスチェック | 筋力、筋持久力、筋パワーの測定方法、全身持久力、アジリティーの各種測定方法 |
| 14 | クーリングダウン | クーリングダウンの方法と実際 |
| 15 | ウォーミングアップ | ウォーミングアップの方法と実際 |

2020年度　北海道スポーツ専門学校　スポーツトレーナー／スポーツ健康　学

別紙1

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目<br>（科目ID） | 二年次研究課題Ⅲ<br>20t241／20s242 | 担当教員<br>（実務経験） | 高山　理香<br>有 ☑　無 ☐　事務員 |
| 対象年次・学期 | 2年・集中 | 担当教員<br>（実務経験） | 北村　和弘<br>有 ☑　無 ☐　スポーツ指導員 |
| 授業形態 | 講義 | | |
| | | 担当教員<br>（実務経験） | 有 ☐　無 ☐ |
| | | 担当教員<br>（実務経験） | 有 ☐　無 ☐ |
| | | 担当教員<br>（実務経験） | 有 ☐　無 ☐ |
| | | 担当教員<br>（実務経験） | 有 ☐　無 ☐ |
| | | 担当教員<br>（実務経験） | 有 ☐　無 ☐ |
| | | 担当教員<br>（実務経験） | 有 ☐　無 ☐ |
| | | 担当教員<br>（実務経験） | 有 ☐　無 ☐ |
| | | 担当教員<br>（実務経験） | 有 ☐　無 ☐ |